

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 9月 24日

【評価実施概要】

事業所番号	4071700555		
法人名	有限会社 王子苑		
事業所名	グループホーム 王子苑		
所在地 (電話番号)	〒822-0001 福岡県直方市感田1040番地4 (電 話) 0949 - 26 - 4245		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年 9月 18日	評価確定日	平成 21年 10月 5日

【情報提供票より】(平成21年 8月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人	非常勤 2 人 常勤換算 9、2 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築 6年
建物構造	軽量鉄骨	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 12,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成21年 8月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	71 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一寿会西尾病院 ・小野外科胃腸科医院 ・アイ歯科クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム王子苑は、なだらかな丘の見晴らしの良い住宅団地の一角にある。広い敷地の中から玄関に入ると、開放たれた窓から心地よい風がさわやかで、落ち着いた気持ちになる。「尊厳・機能回復・社会参加」を理念の柱として、苑長であり管理者夫妻の介護に対する熱い思いを職員全員が理解し、共鳴し、自立支援に向けて様々な努力を積み重ね、家族の信頼も厚い。利用者の健康管理は看護師の資格を持つ苑長、薬剤師の夫人、料理上手な職員で「食と医療」を組み合わせ、質の高い介護サービスを実践している。「生涯自分の足で歩こう」をテーマにリハビリノートを作り、利用者一人ひとりに合わせた機能回復訓練を、職員総力で取り組んでいる。また、自治会に加入し、「おたすけ隊」で独居高齢者を訪問したり、町内のパトロール等に参加して、地域との交流は活発である。今後は、苑長夫妻の介護に取り組む情熱と、よき理解者の職員が力を合わせ、究極のグループホームを目指していけることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

項	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善点は「人権教育、啓発活動」の一件で合ったが、人権研修を職員が受講し、毎月の定例会の勉強会として取り上げ、教育、啓発活動に取り組み改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を職員に配布し、記入してもらい、管理者がまとめ、全員参加で作成している。評価結果は職員全員に回覧し、介護サービスの質の向上と、質の確保に向けて取り組んでいる。</p>
項	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は二カ月毎に開催し、利用者家族、地域代表、行政職員、ホーム管理者、主任が参加し、活発で、有意義な意見交換の場として、双方向的な会議である。会議で出た意見や要望は、できるだけホーム運営に反映されるように様々な工夫がされている。</p>
項	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に意見箱を設置し、苦情窓口を外部、内部ともに明示し、意見が出しやすいように工夫している。家族来訪時に職員が、家族と親しく話し合い、意見や要望を聴いている。また、家族会を設立し、毎年2回開催し、家族同士共通の悩みや親睦を兼ねて有意義な会議である。出された意見は検討し、出来るだけ要望に応えるように配慮している。</p>
項	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、ごみ当番、独居高齢者を訪問し、ボランティアをしていく「おたすけ隊」、地域の安全を見守るパトロール等に管理者が参加している。また、ホーム行事に地域住民や利用者家族が参加し、地域密着型グループホームとして、活発な交流が行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「生涯自分の足で歩こう」を方針に、普通の家庭で出来ることを基本として、利用者の尊厳を守りながら、地域の社会参加等を理念に謳い、パンフレットに掲載し玄関にも掲示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者は職員に毎朝、介護サービスに対するホーム理念を説明し、理解してもらい、利用者一人ひとりに合わせた介護を実践している。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	管理者は、自治会の「おたすけ隊」に入り独居老人を支援したり、清掃活動に職員と利用者が一緒に参加している。利用者の楽しみのひとつである、3組のボランティアが交代で毎年来苑し、三味線、読み聴かせ等、楽しい交流が図られている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者、職員は自己評価の意義を理解し、職員の全員参加で自由に気づきを書いてもらい、管理者がまとめて作成している。評価結果は職員に回覧し、目標達成に向けて様々な取り組みを実施している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	会議は2カ月毎に開催し、地域の保健課係長、区長、家族、ボランティア、管理者、職員で構成され、苑の状況、行事予定や外部評価の報告をし、参加者からは、質疑などがあり、意見や情報交換の場となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	行政主催の説明会、懇親会などに参加し、介護サービスに関する相談など、積極的に意見交換する機会をつくっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用	職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度の研修会に、積極的に参加し、利用者、家族にいつでも説明やアドバイスが出来る体制がある。また、資料、パンフレットも用意している。		
		管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の来苑時に、利用者の苑での生活の様子や健康状態を伝え、金銭管理についても家族に報告し、サインを頂いている。定期的に苑だより「陽だまりの丘」を家族に配布し、職員の異動があった場合は報告をしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	年2回の家族会を開催し、家族の意見、不満、苦情、心配事など、話し易い雰囲気の中で聴きだし、出された意見や希望は、苑の運営に反映するよう努力している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	開設6年目になるが、職員の6割が3年以上の勤務者である。異動や離職者を最小限に抑え、利用者へのダメージを防ぐように職員間で努力している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
11	19	人権の尊重	職員の採用条件は特になく、能力を発揮できるように、色々な資格が修得できるよう応援している。管理者は、職員が生き生きと、笑顔で楽しく仕事出来るように配慮している。		
		法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している			
12	20	人権教育・啓発活動	外部研修に参加した職員は、毎月行われる定例会で、報告し、職員全員で周知を図っている。管理者は、職員に、利用者に対する尊厳の心、言葉遣いを議題として常に話し合っている。		
		法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる			
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み	管理者は、職員の外部・内部の研修会への参加を交代で受けてもらい、資格修得に全面的に協力し、知識の向上に努めている。また、介護、看護の手技、薬の知識などは管理者から適宜に指導が行われている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上	地域の同業者との交流を持ちながら、情報交換の場と なっている。また、相互訪問などの交流を通じて、 サービスの質の向上と質の確保に取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交 流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向 上させていく取り組みをしている			
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居希望者は、見学、体験入所や家族と一緒に泊 まったりし、利用者、職員と、馴染みの関係を築きなが ら、入居希望者と家族が納得して、入居してもらって いる。		
		本人が安心して、納得した上でサービスを利用する ために、サービスをいきなり開始するのではなく、 職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染 めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	介護する側、される側と意識を持たず、一緒に暮らして いるという信頼関係が出来ている。人生の先輩であ る利用者に教えてもらうことが多く、笑い、泣きを共に 共感し合える家庭生活を目指している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている			
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	利用者に半年に1度、今の「私の気持ち」を短歌形式 に短冊に書いてもらい、今の気持ちを表出し、出来る だけ実現できるように努力している。意向表出の困難 な利用者の場合は、家族等に相談し、利用者一人ひ とりの希望を把握するように工夫している。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討 している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	職員は、利用者、家族の希望を聴き、モニタリングし、 介護者の気づきを大切にして、利用者一人ひとりに合 わせた介護計画を作成している。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映した介護計 画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	3ヶ月毎に、介護計画の評価を実施し、見直しを職員 全員で検討している。利用者の心身の状態変化に応 じて、家族に相談し、介護計画の見直しをしている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、 見直し以前に対応できない変化が生じた場合 は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状 に即した新たな計画を作成している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者のかかりつけ医への受診、美容院への送迎などを支援し、年1回外泊可能な利用者と職員と一緒に旅行に出かけている。また、遠方の家族には、利用者と一緒に部屋で泊り、一緒に食事をし、普通の生活を実感してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を優先し、かかりつけ医を受診している。受診内容は、個人記録や申し送りノートに記載し情報を共有している。又、緊急の場合は、提携医などの往診等で迅速に対応できるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアは、常に利用者、家族の意向を大切にしている。入居時に利用者、家族に説明をし、かかりつけ医等と十分に話し合い、安心して終末期を過ごせるようマニュアルを作成し、職員全員で共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は、利用者の尊厳を守り、常に丁寧な言葉を使い、強い口調にならないように心掛けている。また、個人情報を記録した書類は、鍵の掛る書棚に保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、基本的には、自由に一人ひとりのペースを大切に、日々の筋トレ、下肢筋力や毎日の散歩、脳トレをしたり、楽しみながらの生活リズムを重視し、希望にそって支援をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聴き、メニューに取り入れ、家庭的なリビングで、利用者と職員が、会話をしながら食事の準備をし、管理者、職員が利用者と一緒に食卓を囲んで楽しい雰囲気ですべてしている。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が、1番風呂に平等に入れるように、順番ノートを作成し、週3回の入浴を楽しめるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	利用者、一人ひとりの生活歴や力を活かして、短歌を詠んだり、硬筆の練習、縫物、食事の準備、庭の掃除など、役割、楽しみごとの支援をしている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	近所の公民館で開かれている、趣味の会を見学し、散歩コースである、王子神社や畑に行ったり、本人の希望にそった外出を支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員一同は、鍵を掛けることの弊害を理解している。利用者の部屋に入る時は、ロックや声かけをし、様子を見ながら安全確認をしながら見守っている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回の避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など定期的に行われている。地域の方の自宅を避難場所などと提供の申し出が得られ、非常災害時に備えての非常食や飲料水などの備蓄もある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	利用者の1日の水分量は1リットル以上を目標にし、食事量、水分量を記録している。栄養バランスは、職員全員で考え、季節の材料を献立に取り入れ、一人ひとりの状態や力に応じた支援をしている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	自然の光が天窓から入るように、管理者が苑を設計し、居間や廊下には手すりが付けられ、段差のない畳敷きの部屋には、生活感や季節感を採り入れ、利用者にとっては心地よく過ごせるように配慮されている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	利用者の生活スタイルに対応できるように広いスペースが確保されている。温度、湿度、換気は利用者の状態により調整され、馴染みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫がされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			